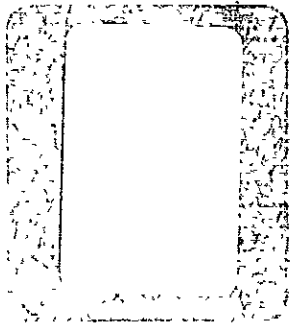


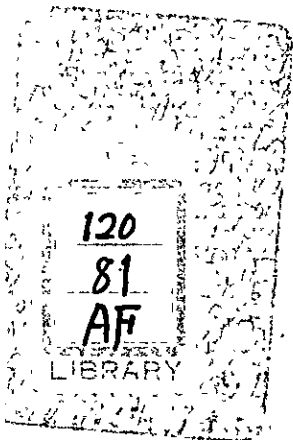
17205
✓ E.1
K



セイロンデワフワ地区
農村開発計画関係資料

1969年10月

海外技術協力事業団
農業開発協力室



国際協力事業団

受入 月日	84.4.7.	1207
登録No.	02699	81
		AF

目 次

第 1 章	セイロン概観 (国連開発計画 1969年1月31日発行)	1
1)	地理条件	1
2)	気 候	1
3)	人文地理	1
4)	宗 教	2
5)	歴 史	2
6)	政治・行政	2
7)	社会経済事情	3
8)	国際機関および二国間援助	4
9)	参考資料	5
第 2 章	関係機関機構図	7
1)	農業省	7
2)	農業局	9
3)	灌漑省	10
4)	アヌラダプラ県庁	11
5)	中央農研	12
6)	ドライゾン農業試験場	17
第 3 章	Record of Discussion	19

JICA LIBRARY



1026762[3]

第 1 章 セイロン概観

1) 地理条件

面積 25,330 square miles (63,325 km²)
最長 270 miles (430km)
北緯 5.5° ~ 9.5°
東経 79° ~ 82° } に位置する

2) 気候

南西モンスーン(5月~9月)および北東モンスーン(9月~1月)により多量の雨がもたらされるが、終日続けて雨が降ることはほとんどない。気候条件によりセイロンは次のように分けられる。(a)中央高地を境とした南西部のWet Zone、(b)北東部のDry Zone、(c)中央高地-up-country。コロンボの年平均雨量は100 inches(2540mm)、年平均気温は80° F(26° C)。湿度は日中平均76%、夜間89%である。Dry Zoneでは北東モンスーンの時大量の雨が降り、年平均雨量は40 inches(1016mm)~75 inches(1,905mm)である。平均気温は85° F(29° C)~95° F(35° C)である。Up-Country において、Kandy の平均気温は70° F(21° C)、Nuwara Eliya は58° F(14° C)である。Up-Country の平均雨量は150 inches(3,010mm)~200 inches(5,080mm)である。

3) 人文地理

1968年の人口は12,00万人、人口増加率は2.2%。1963年のセンサスによれば、人口の70%は北部インドから来た初期のアリア移民の子孫といわれるシンハリ人であり、シンハリ語(Sinhala)を話し、その大部分が仏教徒である。人口の2.2%がヒンズー教徒の子孫である南インド出身者のタミール人で、タミール語を話す。タミール人のうち、セイロンタミール人はかなり古い時代にインドから渡ってきており、彼等の大部分は、Jaffna, Mannar, North Central Province, Trincomalee, Batticaloa 地域に住んでいて、セイロン国籍をもっている。他のタミール人-インディアタミール人は19世紀にセイロンにきたもので、中央高地に居住し、その大部分の者がセイロンの市民権をもっていない。人口の7%はムスリム(Moors and Malays)であり、残りはパーガー(オランダ系、ポルトガル系)およびVeddahs(現住民)である。

Wet Zone すなわち南西部に人口が集中し、全人口の60%がこの地域に居住している。人口の70%がJaffna 半島およびBatticaloa 周辺の狭い海岸地域に住んでいる。残りがDry Zoneに散らばっている。

1963年の調査によると全労働者の53%が農業に従事し、16%が公務に、10%が工業、9%が商業、12%が鉱業、建築、運輸、通信、その他の産業に従事している。工業、運輸、

通信関係従事者の大部分は公務員である。

Colomboは1966年において人口546,000人であり、商業、工業、港湾の中心地である。コロンボ以外の人口5万人以上の都市はJaffna, Kandy, Galle, である。

4) 宗教

人口の67%が仏教徒で、18%がヒンドウ教徒、8%がキリスト教徒、7%が回教徒となっている。ゾロアスター教、その他の宗教も信捧されている

どの町にも仏教およびヒンドウ寺院があり、モスクだけでなくローマカソリック教、プロテスタント教会がある町がかなり存在する。

5) 歴史

シンハリの有名な歴史書 'Mahavansa' によるとインドのVijaya王子がB.C. 504年ころ700人のアリア人部下を引きつけてセイロンに上陸したが、当時からの島には、原住民が在っていた。Veddahsとして知られる彼らの子孫が今もなほ生き残っている。Vijayaは2300年もの間不滅の榮華を誇っていたシンハリ王朝を発見した。初期シンハリ王国は、Dry Zoneの北部平原地帯に首都を構えていた。

B.C. 300年ごろ、インドの国王アショーカ王が、息子のマヒンダをセイロンに派遣し、Buddhaのメッセージを送り、大部分の指導者、人民を仏教に改宗させた。この精神的なめざましにより学問と芸術が最盛期を迎えた。シンハリ王国の最初の首都アヌラダブラの榮光と繁栄はBabylonやNinevehと並び称せられるものである。この時代につくられた文明の遺跡およびめざましい人口貯水池および灌溉事業の形跡が主に、Anuradhapura およびガ二の都Polonnaruwaにおいて今なお見られる。

南インド(主にCholasおよびPandyas)のタミール人の侵入および12世紀のマラリヤの猛威によりシンハリ人は中央山岳地帯へと追われた。ヨーロッパの国々が東方と海上貿易を開始したころセイロンは内戦に終始していた。16世紀にポルトガル、17世紀にオランダにより国土の一部が占領された。さらに19世紀英国により全土が占領された。1931年に憲法改正が進み1948年2月英連邦の一員として完全独立を達成した。

6) 政治および行政

憲法は英国を模範とし、議会制民主主義を唱っている。総理大臣の推薦にもとづき国王によつて任命された総督を置く。総理大臣および閣僚は国会に対し責任を負う。国会は国王および2院すなわち下院(House of Representatives)と上院(Senate)からなっており、下院は選挙により選出された151人および総督により任命された6人、計157人から成っている。上院は30名の議員から成り15名は下院の選挙により残り15名は総督により任命される。下院議員は各選挙区で選出され、18才以上の国民は皆選挙権を有する。

主な政党として統一国民党(UNP)、自由党(SLFP=Sri Lanka Freedom Party)、平等党(Lanka Sam Samaja Party)、連邦党(Federal Party)、共産党(Communist Party)、タミル連盟(Tamil Congress)、である。1960

年7月に行なわれた総選挙でSLFPが単一党となりSLFP政府は他の2政党(LSSP, CP)と連合して1964年6月まで政権を担当した。1965年3月に行なわれた総選挙でこの連合政権は敗北し、UNPが単一党となり、FP, 人民統一戦線(Mahajana Eksath Party), SLFSP, 社会人民党(Jatika Vimukthi Party), LPP(Lanka Prajathanthravadi Palcshaya)と連合した。1968年FPが連合政権から離れている。次期下院議員選挙は1970年に実施される。

行政は内閣により担当され、各省は各局より構成され、各省の最高責任者は次官(Permanent Secretary)である。局長は各局の責任者で行政上は次官に対して責任をもつ。この国は9つの州(Province)からなり22の行政区(districts)に分れており、知事(Government Agent)が各行政区の最高責任者となっている。

各行政区は4段階の下部機構—Municipal Council(行政区議会), Urban Council(町議会), Town Council(村議会), Village Committees(部落委員会)—を持つている。Colomboや他の大都会にはMunicipal Councilおよび、市長(Major)を置いている、小さな町には、議長の下にUrban Councilを持つており、村レベルでは議長の下にTown CouncilあるいはVillage Committeeを持つてい

7) 社会経済事情

セイロンの国民所得は1968年に86億RS(14億44万US\$=5,160億円)で、1人あたり国民所得は約710RS(120US\$=43,200円)である。

セイロン経済は農業を基盤としており、国土総面積約1,600万acreのうちほぼ470万acreが農耕地帯である。紅茶、ゴムの大部分、ココナツの一部が500acreを越える規模のエステートで栽培されている。小農の多くもゴム、ココナツを栽培しており、米、野菜はほとんどこれら小農の手に委ねられている。最近国内食糧需要のほぼ半分が輸入され、外貨不足を生じている。過去数年にわたり行なわれた政府の食糧増産計画の実施により、増産された作物もあるが1968年の米の生産率は30%程度であった。

1960年の中ごろにおける国民総生産に占める割合は、農業が43%、工業(茶、ゴムの加工は除く)8%、建築5%、運輸通信5%、貿易、金融、保険、純エステートが16%、その他20%となっている。セメント、繊維、砂糖、紙、化学薬品、油脂、陶器、Cementite(チタン鉱)、皮革、合板、塩、鉄鋼、タイヤ、金細工、小麦粉、その他の産物を取り扱っている20の国営工業公社(State Industrial Corporation)がある。精油(Petroleum refinery)工場が建設中であり、1969年5月に完成される予定。国営公社が全工業生産高の約1/3を占めている。

私企業は各種製品を作っているが、大部分が消費物資である。主要商品は飲食物、タバコ、野菜油, disiccated coconut, 飼料, 衣服, 石鹼, 洗剤, セメント製品である。

セイロンの輸出総額は19億RS(3億2千万US\$=1,140億円)になっており主要輸出

品の紅茶がその65%、ゴム16%、ココナツ製品9%で、外貨獲得高の約90%を占めている。また肉桂樹、丁子香、石墨、宝石等も輸出している。

1967年の輸入のうち消費財が55%を占め、そのうち小麦粉が27%、繊維が4%であり貿易収支は入超となっており、1968年には約6億RS(1億US\$=360億円)の入超とならう。

セイロンの天然資源、特に鉱物資源については未知で、地質調査が計画されているが調査に必要な技術者の不足が障害となつて、ほとんど進行していない。西部の鉱物資源についてはかなり解つているが、南東部については、大部分が森林地帯となつており未知である。黒鉛(Graphite)がセイロンの主要な鉱物資源となつている。近年海浜工業(beach sand industry)が開始された。島の北西部について石油資源を調査中であり、他に石灰岩、白雲石、silimanite, glass sand, 石英、長石、カオリン、宝石についても知られている。鉱物を原料にした工業は現在のところ存在しない。インドに比べ生活水準はかなり高く、平均余命は60才以上である。就学率は90%を越えており、輸送、通信機関が非常に安く、国民の間で利用されている。

セイロンは社会保障国家(Welfare State)と呼ばれる数少ない国であり、開発途上国の中で、この面に関しては最も進んだ国に属する。教育は無料であり、医科機関も無料で利用できる。また政府は国民の主食である米は、国内需要の1/3を無料配布している。

セイロンの直面する経済開発における重要な点は、a)農業開発—外貨不足を解消するために食糧増産が緊急に必要であり、農業の機械化、農業生産増大のための水資源の利用、伝統的な輸出品となつている茶、ゴムの価格下落等の事態に対処するための農業の多角化、高収量をあげるための肥料利用の増大、農業研究、人材訓練。b)工業開発—政府は鉱物資源網羅、国内で生産される原料を利用した工業の確立、生産増大のために現存の工業の経営改善、主要工業の技術者訓練である。

8) 国際機関および二国間協力活動

国連の駐在員は国連加盟国における国連開発計画活動の統制を行ない、世界食糧計画をも代表している。駐在事務所の他国連情報センター、WHOの事務局、国連児童基金等の事務局がある。駐在員は情報センターの局長として活動している。

あらゆる国連開発計画のもとで60人の専門家がセイロンで活躍している。

国連開発計画の特別基金のもとで6つのプロジェクトが活発に動いている。すなわち、林業開発のための投資前基礎調査、セイロン技術専門学校、Diyatalawa 地図調査研究所、国連経済計画プロジェクト、漁業生産開発センター、南西海岸地帯の上下水道建設計画である。国連開発計画の技術援助部、特殊工業開発計画等の下で次のような援助も行なわれている。すなわち行政、政府金融、陶器工業、野菜油製造技術、小規模工業開発、化学工業、繊維工業、冶金、社会保障制度、牧草改良、製材工業、水田改良、数学教育、図書館構、農業教育、経済地理、鉱物学、科学教育設備の整備、マラリヤ、フィラリア予防、医療に関する援助である。

世界食糧計画のもとで4つのProjectが実施されている。すなわちShramadana (自助) 運動への援助として開拓労働者に無償食糧供与を行なっている。また青年入植計画 (Youth Settlement Scheme) 農業用開発団体のメンバーへの食糧援助、入植者への食糧援助等も含まれている。

UNICEF計画のもとで政府はT.B. Control, B.C.G. 接種、社会福祉事業、保健事業、教育 (中等学校での科学、数学教育) の充実強化および教科 編さん等への事業援助が行なわれている。

二国間援助は、オーストラリア、英、カナダ、チエコスロバキア、西ドイツ、フランス、東ドイツ、インド、イタリア、日本、中華民国、ポーランド、ルーマニア、スウェーデン、米、ソ連により行なわれている。二国間技術援助はC.P.により行なわれ、教育、医療、保健、食糧、農業、林業、動力、燃料、運輸、通信、行政、貿易、工業の各分野にわたっている。コロomboプランの事務局は局長を長としてコロomboに置かれている。

二国間プロジェクト協力は主に、カナダ、チエコスロバキア、西独、フランス、東独、ポーランド、ソ連から受け入れられている。これらはグラントやローンの形で行なわれ、用途は以下のようになっている。資機材の輸入、カトナヤケ国際空港建設、動力開発プロジェクトの建設計画、Chipboard工場、土水道計画の完成、総合繊維工場の建設、ゴム林再生計画の実施、金属工場設備および機械の購入、家族計画Projectの推進、タイヤ工場の建設、製粉機械の購入。

二国間商品援助はオーストラリア、英、カナダ、西ドイツ、仏、日本、アメリカにより行なわれてきた。いずれもグラントやローンの形でなされ、対象は小麦、小麦粉、肥料、農機具、モーター部品、工業原料、機械、金属、トラクター、繊維等である。

Asia Foundationは社会開発事業機構の強化および図書館の改善を援助している。

CARE (Co-operative American Relief Everywhere Organization) は小麦粉、粉ミルク、野菜油等を幼児、学童、妊婦、患者等に与えている。Ford Foundationは政府の家族計画、米の研究に対する援助を行ない、Rockefeller Foundationにより農業関係の3年間の奨学金制度が設けられ、Smithsonian研究所はセイロン大学の象の生態研究および植物の生理、生態研究に援助している。

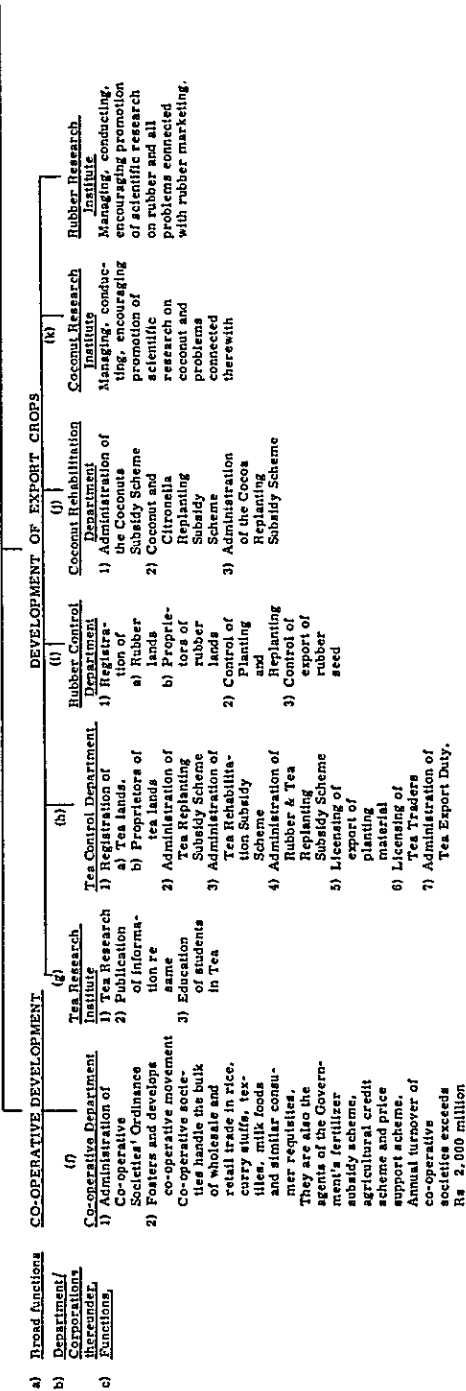
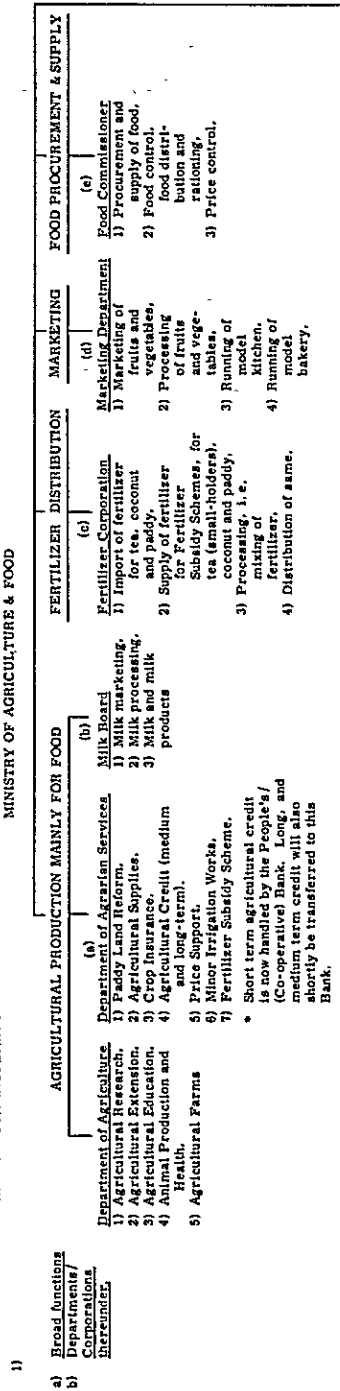
9) 参考資料

- Ceylon, Its Peoples and its Homes-1962 - Transatlantic
- \$ 2.00
Blaze, Ray
- Ceylon-1965 - International
Publication
Service - \$ 7.00
Brohier, R.L.
- Short History of Ceylon-1967 - Praeger - \$ 6.00
Ludowyk, E.F.C.

- Ceylon Year Book-1968 - Government Publication
Bureau, P.O. Box 500,
Secretariat, Colombo -
Rs. 7.50
- Economic Development 1966-1968
Review and Trends - Government Publication
Bureau, P.O. Box 500
Secretariat, Colombo -
Rs. 3.80
- Foreign Aid, August 1968 - Government Publication
Bureau, P.O. Box 500,
Secretariat, Colombo -
Rs. 0.50
- Ceylon-1960 - Van Nostrand - \$ 2.75
Tresidder, A.J.
- Ceylon-Dilemmas of a New Nation-1960
Wriggins, W.H. - Princeton Press -
\$ 12.60
- Ceylon-1964 - Praeger - \$ 6.95
Pakeman, S.A.

第 2 章 国体機関機構図

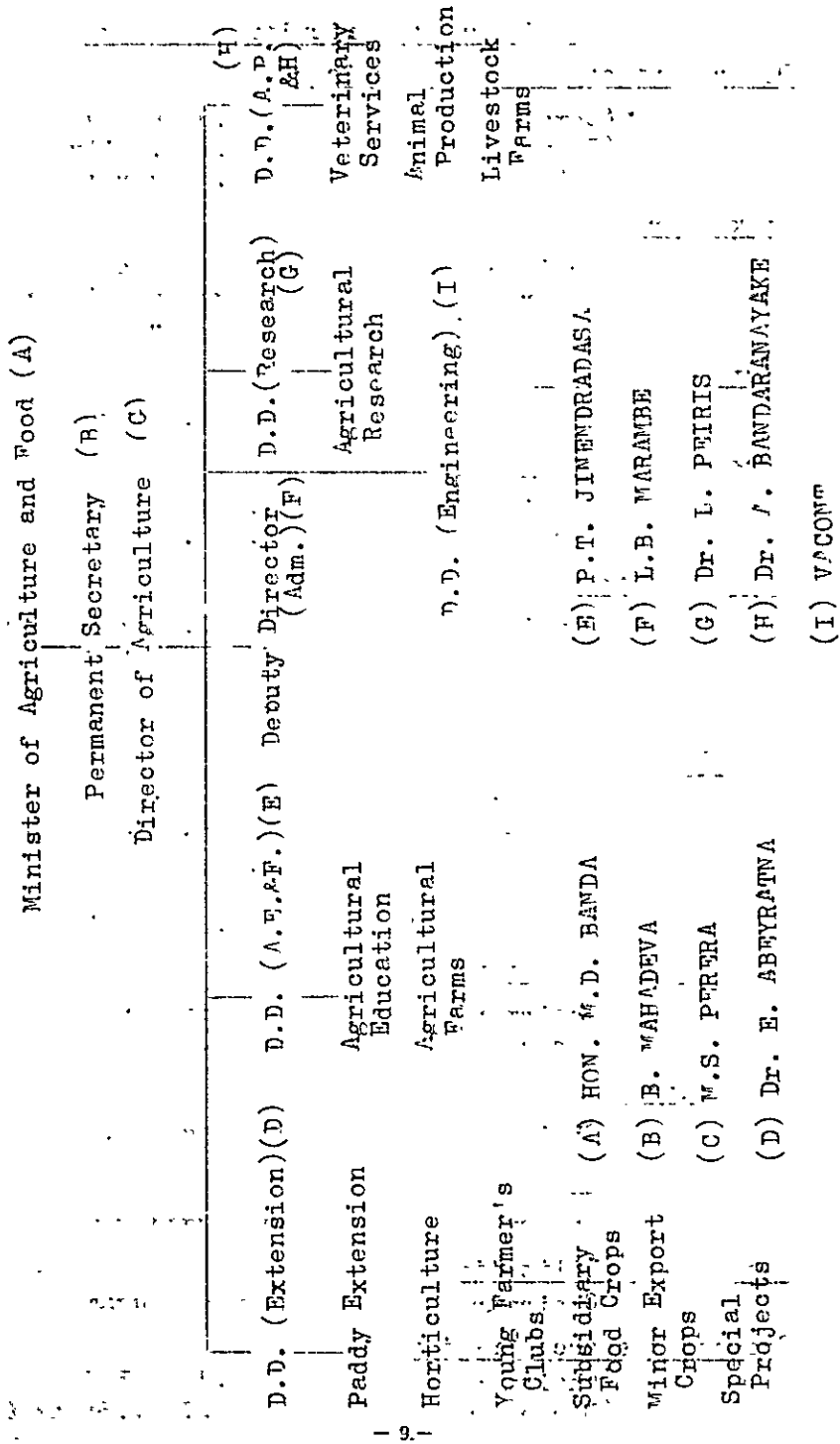
MINISTRY OF AGRICULTURE & FOOD



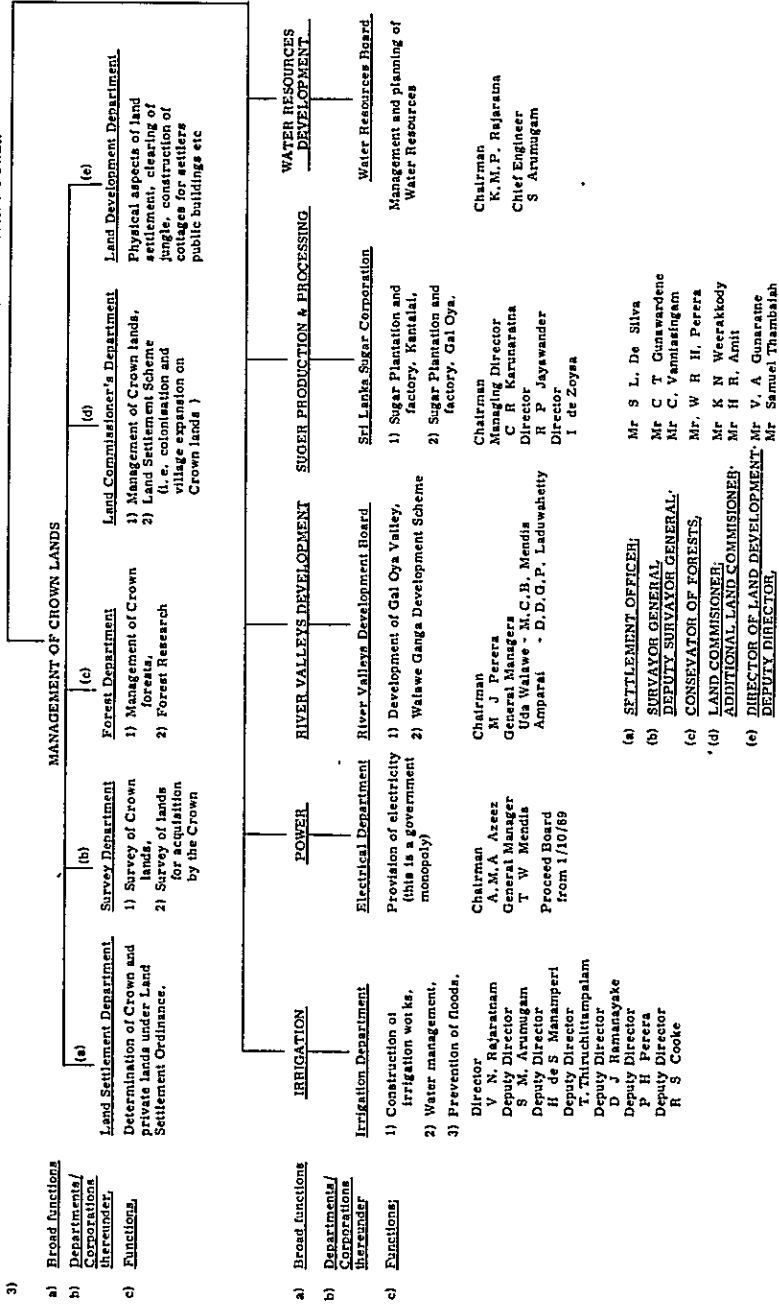
Ministry of Agriculture and Food

- (a) Department of Agrarian Services
 (Commissioner) S.B. Senanayake
 (Deputy Com:) 1. E.J. de Silva
 (" ") 2. V.T. Navaratne
- (b) Milk Board
 (Chairman) D.C.L. Amarasinghe
 (General Manager) 1. Felix Seneviratne
 (" ") 2. D.P. Gunatilake
- (c) Fertiliser Corporation
 (Chairman) A.T.M. Silva
- (d) Marketing Department
 (Commissioner) K.B. Dissawayake
 (Deputy) A.W.R. Pereva
- (e) Food Department
 (Commissioner) V.A.J.P. Senaratne
 (Deputy) M.B. Senanayake
 (") D.I. Chandrasekera
 (") M.D.D. Peris
- (f) Coop Department
 (Commissioner) W. Pathirane
 (Deputy ") H. Wickramasinghe
 (" ") T.D.L. Pieris
 (" ") L.B. Rajaratne
 (" ") W.W.J. Mendis
- (g) Tea Research Institute
 (Chairman) S. Pathmanathan
 (Director) Dr. L.H. Fernando
- (h) Tea Control
 (Chairman) C. Chanmugam
- (i) Rubber Control
 (Chairman) C. Chanmugam
- (j) Cocunut Rehabilitation
 (Chairman) C. Chanmugam
- (k) Coconut Research Institute
 (Chairman) R.H. de Mel
 (Director) Dr. W.R.N. Nathaniels

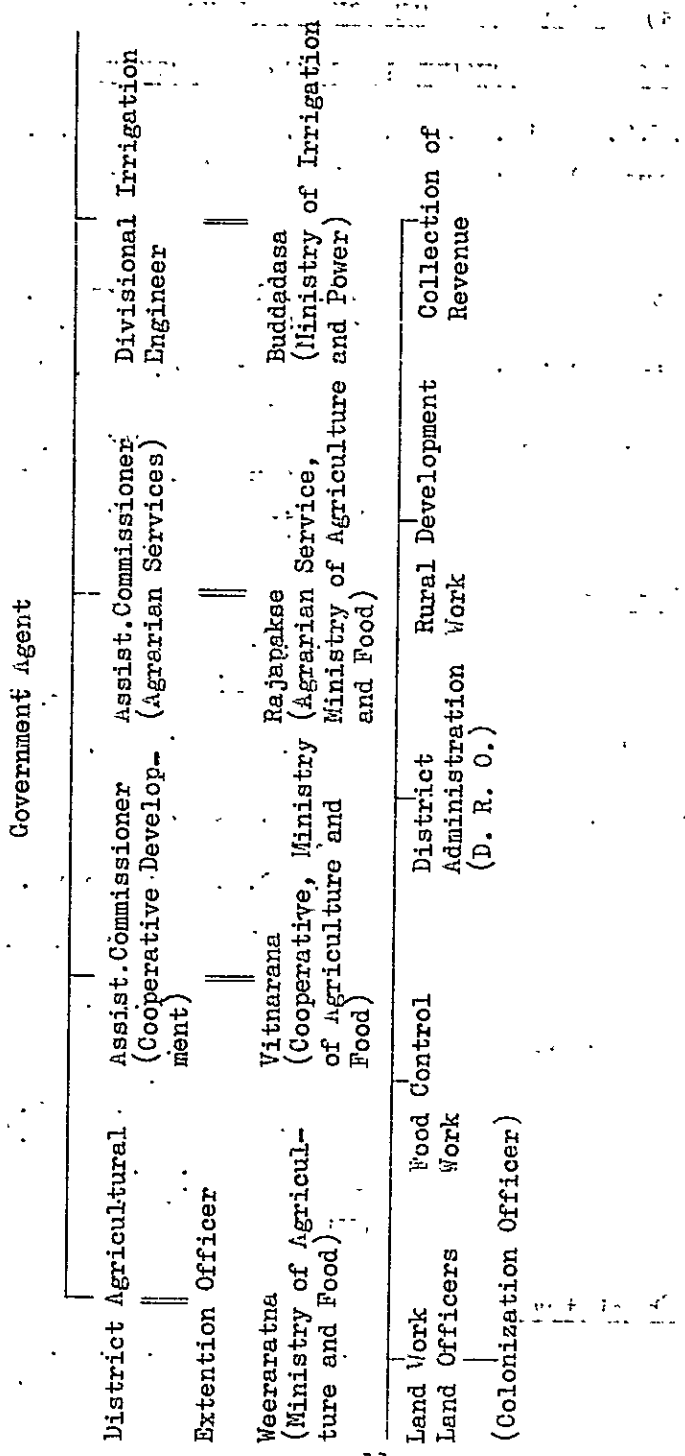
2) Organizational Chart of the Department of Agriculture Table 4



MINISTRY OF LANDS, IRRIGATION & POWER



4) Organization of Government Agency in Anuradhapura District



5) STAFF AT RESEARCH STATIONS

CENTRAL AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

J.W.L.Peiris, B.Sc., Ph.D. (Lond.), D.I.C.

Deputy Director of Agriculture (Research)

Administration

- Asst. Director (Research) : D.V.W. Abeygunawardane, B.Sc.,
Ph.D. (Lond.), D.I.C.
- Administrative Officer : S. Dharmapalan, B.A. (Cey.),
C.A.S.
- Division of Programme & : Experimental Officer,
Projects I. Balasuriya, B.Sc. (Cey.)
Experimental Officer,
(Miss) I. Perera, B.Sc. (Cey.)

Agricultural Botany

- Botanist : S.D.I.F. Gunawardane, B.Sc.
(Cey.), M.Sc. (Texas A & M)
Ph.D. (Calif.), M.Sig. Xi.
- Asst. Botanist : S.P.R. Weerasinghe, B.Sc.
(Cey) ++
- Research Officers : N. Devasunderarajah, B.Sc.
(Allaha) ++
S.S.B.D.G. Jayawardene, B.Sc.
(Cey.)
(Miss) R. Arsaratnam, B.Sc.
(Cey.)
S.M.F. Marikar, B.Sc. (Cey.)
- Experimental Officers : V. Yogaratham, B.Sc. (Poona)
P.B. Ekanayaka, B.Sc. (Cey.)
C.J. Seneviratne, B.Sc. (Cey.)
K.L. Mirihagalle, B.Sc. (Cey.)
S.H. Upasena, M.Sc. (Moscow)
V. Arulnandhi, B.Sc. (Cey.)
(Miss.) K.F. Silva, M.Sc.
(Moscow).

Agricultural Chemistry

- Chemist : M.W. Thenabadu, B.Sc. (Cey.),
M.Sc. (Texas A & M)

Asst. Chemist : Ph.D.(Calif.) A.R.I.C.,
M.Stg. Xi.

Research Officers : B.C.G.Gunasekera, B.Sc.(Cey.)
Ph.D.(Calif.)

Experimental Officers : S.Nagarajah, B.Sc.(Cey.)
A.R.I.C. ++
S.Kadirgamathiyah, B.Sc.Hon.
(Cey.) A.R.I.C. ++
D.M.Rodrigo, D.I.C.
S.L.Amarasiri, B.Sc.Specialty
(Cey.), A.R.I.C. ++
H.James, B.Sc.(Cey).

Experimental Officers : K.Wickramasinghe ++
C.D.Dharmasena, B.Sc.(Cey.)

Plant Pathology

Plant Pathologist : -

Research Officers : S.N. de S Seneviratne, B.Sc.
(Cey.) ++
P.S.Y.Fernando, B.Sc.(Cey.) ++
D.L.S.C.Wimalajeewa, B.Sc.
(Cey.) ++
(Miss.) S.P.Hemachandra,
B.Sc.(Cey.)
A.W.Senanayake, B.Sc., M.Sc.
(Hawaii).

Experimental Officers : W.W.V.P.Fernando
B.S.Unambuwe
D.L.Wickramasinghe; B.Sc.
(Cey.)

Entomology

Entomologist : H.E.Fernando, B.Sc.(Cey.),
M.Sc., Ph.D.(Illi.)

Research Officers : Nalini Wickramasinghe, B.Sc.
(Cey.), 2nd M.B.B.S., Ph.D.
(Illi).
Y.Elikewela, B.Sc. Agric.
M.Sc. (Hawaii)
R.V.W.E. Amarasekera, B.Sc.
(Cey.) ++
(Miss) N.B.A.Perera, B.Sc.
(Cey.)

Experimental Officers	: I.D.R.Peiris, B.Sc.(Phillip- pines) I.H.Peiters D.Jesudason, B.Sc.(Cey.) P.H.Somasunderam, B.Sc.(Cey.)
<u>Horticulture</u>	
Horticultural Officer	: J.Kotalawela, B.Sc.(Cey.), M.Sc.(Syd,)
<u>Minor Plantation Crops</u>	
Head of the Division	: E.Jayanetti, B.Sc.(Agra) Ph.D.(Mc.Gill)
Food Technologist	: C.Charavanapavan, B.Sc. (Lond.), M.Sc.(Lond.) D.I.C., A.I.C.
Research Officers	: L.P.Kodagoda, M.Sc.(Tokyo)++
<u>Tobacco</u>	
Tobacco Officer	: E.Jayanetti, B.Sc.(Agra), Ph.D. (Mc.Gill)
Experimental Officers	: A.Selvarajah, B.Sc. (Cey.)
<u>Systematic Botany</u>	
Systematic Botanist	: K.L.D.Amaratunga, B.Sc.M.Sc. (Mysore)
<u>Botanic Gardens</u>	
Superintendent	: D.M.A.Jayaweera, B.Sc., M.Sc.(Lond.) F.L.S. D.T.Ekanayake, B.Sc.(Cey.)
Asst. Superintendent	
<u>Field Trials Division</u>	
Manager	: S.K.A.Weerawickrama, B.Sc., Ph.D. (Queensland)
<u>Soil Conservation</u>	
Soil Conservation Officer	: J.S.Gunasekera, B.Sc.(Agra).
Research Officers	W.S.Alles, B.Sc.Hon.(Cey.) P.Krishnarajah, B.Sc.(Poona) M.Sc. (Mc.Gill).

Statistics

Statistician : (Miss) T. Shanmugan, M.Sc.
(Glasgow)

Agricultural Research Station,
Maha Illuppallama.

Research Officer-in-Charge : G.W.E. Fernando, B.Sc. Agric.
(Cey.)
M.Sc. (Nott.) Ph.D. (Syd.)

Research Officers : S.T.W. Kirinde, B.Sc. (Cey.)
T. Sivanayagam, B.Sc. (Poona)
H.M.E. Herath, B.Sc. (Poona)
M.Sc. (Br. Col.)
T. Arulrajah, B.Sc. (Allaha-
bad)
M. Jayabalan, B.Sc. (Allaha-
bad)
T. Sivalingam, B.Sc. (Poona)
V. Velmurugu, B.Sc. (Allaha-
bad)
M.H.J.P. Fernando, B.Sc. (Cey.)
P. Ganeshan, B.Sc. (Poona)
J.A. Lewis, B.Sc. Eng. (Alla-
habad)
A. Kandiah, B.Sc. (Cey.)
H. Somapala, M.Sc. (Moscow)
W.S. Manoharan, B.Sc. (Cey.)
N.E.M. Jayasekera, B.Sc. (Cey.)

Experimental Officers : V. Sinniah, B.Sc. (Poona)
Vethanayagam Silva, B.Sc.
(Poona)
S. Ponnuthurai, B.Sc. (Poona)
A.S. Vivekanandan, B.Sc.
(Poona)
C.B. Hindagala, B.Sc. (Cey.)
G.D. Siritunga, B.Sc. (Cey.)
S. Jayapathy, B.Sc. (Cey.)
L.M. Phillipneri, B.Sc. (Cey.)
R.M. Ariyaratna, B.Sc. (Cey.)
S.M. Amarasoma, B.Sc. (Cey.)
S. Kandasamy, B.Sc. (Cey.)

Agricultural Research
Station, Sita Eliya.

Research Officer-in-Charge : J. Sithambaranathan, B.Sc.

Research Officers : Hon(Cey.), Ph.D. (Edin.)
 : D.T.Weerasekera, B.Sc.(Glasgow)
 : S.Ganeshan, B.Sc.(Poona)
 : K.Siyasithamparam, B.Sc. (Madras)
 Experimental Officers : S.Sivasubramaniam, B.Sc. (Cey.)
 : P.Thavam, B.Sc.(Cey.)

Rahangala Experimental Station:

Research Officer : C.R.de Vaz, B.Sc.(Poona)
 : M.Sc. (Hawaii)

Bathalagoda Rice Breeding Station

Research Officers : N.Vignarajah, B.Sc.(Poona)
 : H.Weeraratna, B.Sc.(Philipp.) ++
 : D.Senadheera, B.Sc.(Cey.)++
 : M.P.Dhanapala, B.Sc.(Cey.)
 Experimental Officers : C.S.Sandanayake, B.Sc.(Cey.)

Southern Division

Research Officer-in-Charge : I.P.S.Dias, B.Sc.(Cey.),
 : Ph.D.(Hawaii)
 Research Officer : G.A.Gunatilake, B.Sc.(Cey.)
 Experimental Officers : P.Yogarathnam, B.Sc.(Poona)++
 : W.N.Alwis, B.Sc.(Cey.)
 : A.Senthinathan, B.Sc.(Cey.)

Northern Division

Officer-in-Charge(Research): J.S.Selvaratham
 : Experimental Officer

N.B. - ++ Abroad under Training

6) Agricultural Research Station-Maha-Illuppallama

Research Officer in Charge	G.W.E.Fernando, B.Sc.M.Sc., Ph.D.
Rice Agronomy	S.T.W.Kirindo. B.Sc.(Research Officer)
Rice Breeding	P.Ganeshan. B.Sc.(" ")
Rainfed Rice	W.S.Manoharam. B.Sc.(" ")
Maize & Sorghum	C.B.Hindagala. B.Sc.(Experimental Officer)
	S.Kandasamy. B.Sc.(" ")
Pulses	M.Jayabalan. B.Sc.(Research Officer)
Chilies & Onions	A.Kandich. B.Sc.(" ")
Vegetables	T.Arulrajah. B.Sc.(" ")
Agro-Industrial Crops	G.W.E.Fernando.
Horticulture	H.M.E.Herath. B.Sc.; M.Sc., (Research Officer)
Pastures	G.W.E.Fernando (" ")
Wood Control Agronomy	V.Velmurugu. B.Sc., (")
Soil Science	H.Somapala M.Sc., (")
Soil Fertility Studies	G.P.Siritunga. B.Sc.,
Irrigation Methods	J.A.Lewis. B.Sc., (Agricultural M.Sc., tural Engineer)
Plant Water Relation	T.Siranayagam B.Sc., (Research Officer)
Plant Pathology	N.E.M.Jayasekera. B.Sc.,
Microbiology	Vethanayagam Silva. B.Sc.,
Entomology	M.H.J.P.Fernando. B.Sc., (Research Officer)
Designs & Tasting Unit	S.Sathasivampillai. B.Sc., (Agricultural Engineer) (Agricultural Officer)
Farm Management	Michael Silva (Farm Manager)

Work Shop

A.V.Jayaratanam.
(Foreman, Grade I)

Administration

D.M.Wickremasinghe.
(Chief Clerk)

第 3 章 Record of Discussion

RECORD OF DISCUSSION BETWEEN THE THIRD AGRICULTURAL SURVEY MISSION FROM JAPAN AND THE AUTHORITIES OF THE GOVERNMENT OF CEYLON

In pursuance of the investigations carried out by the Second Agricultural Survey Mission that visited Ceylon in February - April, 1969 and the basic agreement reached between that team and the authorities of the Government of Ceylon, a Third Agricultural Survey Mission visited Ceylon in July/August 1969 to design the required facilities and prepare the necessary programme prepared by the earlier Mission in its Report dated June, 1969.

The Third Mission under the guidance of its Deputy Leader, Mr. T. Kimura prepared the basic plans for the improvement of infrastructures as well as residential and other facilities in Dewahuwa, the proposed project area; and had a series of discussions with the Ceylonese counter-part officers to formulate a programme of implementation for the Project. Mr. K. Imoto, the Leader of the Team who arrived in Ceylon on the 10th August, 1969, after reviewing the work done by the Team and inspecting the project area conducted the final discussion with the authorities of the Government of Ceylon at a meeting held on the 21st August, 1969, presided over by the Hon. M. D. Banda, Minister of Agriculture and Food.

As a result of these discussions the Mission and the authorities of the Government of Ceylon reached the provisional understanding recorded here-under:

1. The Government of Ceylon and the Government of Japan, as represented by the present Mission accept, in principle, the development proposals contained in the Report of the Second Agricultural Mission. They will be implemented with the necessary modifications mutually agreed upon by the representatives of the two Governments.
2. The implementation of these proposals would be in two phases; the First Phase will commence in October, 1969 with a limited number of activities to be specified in this record of discussions. The Second Phase would commence with the signing of the formal agreement between the two Governments in or around January, 1970.
3. During the First Phase of the implementation period steps should be taken;
 - a) to intensify the improved cultural practices in paddy

- cultivation within the entirety of the project area with the objective of achieving higher yields per acre. Special attention would be paid to the use of adequate inputs like high quality seed, fertilizer and agro-chemicals;
- b) to experiment in an area of approximately 115 acres in the upper regions of the Dewahuwa Colonization Scheme, (Tract 1) the joint farming operations mentioned in the Report of the Second Mission. In the initial stages these activities would be limited to the use of agricultural machinery, fertilizer, agro-chemicals and other cultivation operations like sowing/transplanting and harvesting; and
 - c) to reorganise and strengthen the co-operative society and the cultivation committees in the project area, so that they could implement the more advanced stages of the project.
4. To implement this limited programme in the First Phase of this project, the Government of Japan will provide;
- a) 3 experts in the field of irrigation and drainage, agronomy and rural institutions; and
 - b) the minimum number of agricultural implements and other equipment required for the purpose. The quantities would be determined by the Government of Japan taking into consideration the availability of time, budget provision etc.
5. To implement this limited programme in the First Phase of the project, the Government of Ceylon will provide;
- a) 3 counter-part officers for the Japanese experts mentioned in the earlier paragraph with the necessary supporting staff like technical assistants and agricultural extension workers; and
 - b) local funds and supplies required for the purpose.
6. Further the Government of Ceylon will take necessary steps at its earliest convenience to attend to the following:
- a) commence construction of buildings for the accommodation of foreign and local personnel and office and stores space which would be necessary in the project area;
 - b) amalgamate the two cultivation committees in the project area to form one committee;
 - c) strengthen the working of the co-operative society in the project area by launching a membership drive and providing assistance for its management; and
 - d) arrange for the maximum number of cultivators in the

- project area to obtain credit facilities through co-operative societies.
7. On the commencement of the Second Phase of the implementation programme, the Government of Japan would provide;
 - a) the full complement of technical experts as indicated in Annex I. Further it would endeavour to send other experts on short-term assignments as and when required by the project; and
 - b) all machinery, equipment, tools spare parts and other materials as specified in Annex III.
 8. Similarly, the Government of Ceylon will provide;
 - a) the full complement of counter-part officers and supporting staff as indicated in Annex IV. Further it will arrange for the services of other technical and administrative personnel as and when required by the Project; and
 - b) land and buildings as indicated in Annex V. Further the Government of Ceylon while undertaking to give the Japanese experts the privileges and facilities mentioned in Annex II. will consider the following additional facilities requested by the Japanese Delegation.
 - c) The treatment of the board and lodging allowance mentioned in Clause 1 of Annex II as an allowance for board alone.
 - d) The provision of furnished accommodation with telephone facilities in Kandy or Colombo for the families of the Japanese experts.
 9. The Government of Japan will take necessary steps to train in Japan Ceylonese officials associated with the project, where such training is deemed necessary.
 10. a) The Government of Japan will undertake to bear the entire foreign exchange component of the total cost of the Project.
 - b) The Government of Ceylon will bear the entire local currency component of the total cost of the project. However, counterpart funds realized through the sale, lease or hire of agricultural supplies and machinery sent from Japan under the Project may be utilized to meet part of this expenditure.
 11. The executive responsibility for the execution of this project would be vested in a joint committee comprising of Ceylonese officials and Japanese experts and a representative from the Embassy of Japan. The membership of this Committee would be as indicated in Annex VI. However, this committee would function under the general and special di-

rection of the Government of Ceylon.

The Japanese experts attached to the project will work directly under the Project Manager(Japanese) and the Ceylonese-counter-part officers and the supporting staff will work directly under the Co-Manager(Ceylonese), as illustrated in Annex VII which would serve as an organization chart of the Project.

12. The present Record of Discussion, in part or in whole, is not binding legally either on the Government of Japan or on the Government of Ceylon as the two Governments are to review the said Record of Discussion, to make necessary budgetary provisions respectively upon such review, and to make formal decision to finalize an agreement required for the implementation of the Project between the two Governments. Nevertheless, the gist of the present Record of Discussion is understood to serve as the basis on which the two Governments will finalize such an agreement.

B. Mahadeva
Permanent Secretary,
Ministry of Agriculture & Food.

K. Imoto
Leader, Third Agricultural
Mission from Japan.

ANNEX I

List of the Japanese technical experts

<u>Experts</u>	<u>Number of persons</u>
Project Manager	(1)
Expert on Crop Cultivation	1
Expert on Farm Machinery	1 (for two years)
Farm Economist	1 (from the second year)
Irrigation Engineer	1
Hydrologist	1 (for two years)
Expert on Agricultural Co-operatives	1
Project Coordinator	1 (for one year)

Note:

The Project Manager shall be nominated from amongst the above mentioned Japanese technical experts.

ANNEX II

Privileges and facilities accorded to each Japanese expert:

1. Board and lodging allowance:
Rs. 21/- per diem for board and lodging. If accommodation alone is provided, the economic rent for such accommodation provided will be recovered from the Expert.
2. Medical facilities:
Free medical facilities at Government Medical Institutions for Experts only.

3. Subsistence allowance for travel on duty away from headquarters:

Rs.15/- per diem when the Expert is away from headquarters on duty for period exceeding 12 hours.

4. Cost of internal travel on official business:

A commuted travelling allowance of Rs.100/- per month to Experts who own motor transport. When they use their transport for official travelling outside their home station they will be eligible to claim road mileage for short journeys to points accessible by rail. Payments will be made on lines similar to that which is available to Government servants who possess cars and who are entitled to claim mileage. First class rail travel facilities will be provided.

When the Expert does not possess his own transport, necessary transport will either be provided by Government or the Expert will be reimbursed taxi fare for the journey performed.

Experts will be entitled to the same privileges as are now accorded to diplomatic personnel with regard to purchase of motor transport.

5. Leave:

2 weeks casual leave per annum. Six weeks vacation leave per annum. Leave to be taken within the agreement period. In the case of an Expert whose assignment exceeds two years he shall be entitled to take any accumulated vacation leave of two consecutive years.

6. Income Tax:

Experts will be exempted from payment of income tax.

7. Customs Duty:

On first arrival experts will be exempted from payment of Customs duties on their personal effects. Experts will also be entitled to import free of duty for their use cigarettes and beverages including liquor, to the value of Rs.125/- per month and also foodstuffs to the value of Rs.150/- per month if the expert is not married and is not accompanied by family and Rs.300/- per month if married and accompanied by family.

8. Office Accommodation:

Provision of suitable office space, including office requisites, clerical assistance etc., required by Experts.

ANNEX III

Machinery, Equipment, Tools, Spare Parts and other Materials:

- (1) Construction machinery and equipment and their spare parts.
- (2) Agricultural machinery and implements and their spare parts.
- (3) Pesticides and fertilizer.
- (4) Machine tools for repair work.
- (5) Tools and implements for testing work.
- (6) Equipment and materials for public utilities.
- (7) Vehicles.
- (8) Teaching materials including audio-visual aids.
- (9) Other necessary minor equipment and materials.

ANNEX IV

List of Cylonese counterpart officers, supporting staff and clerical and other personnel.

Project Director	1	Non-resident
(I) <u>Counterpart Officers</u>		
Agricultural Officer	1	
Irrigation Engineer	1	
Co-operative Officer	1	

(II) Supporting Staff

Agricultural Instructor (upland farming)	1
Agriculture Instructor (farm machinery)	1
Agriculture Extension Workers	3
Technical Assistants (Irrigation)	5
Co-operative Inspectors	2

(III) Clerical & other personnel

Clerks	2
Typist	1
Drivers	2
Heavy Equipment Operators	2
Storekeeper	1
Messengers	2
Labourer for Pilot Farm	4-6

Note:

1. Project Co-Manager shall be nominated either from amongst the above mentioned counterpart officers or from outside.
2. The Colonization Officer of Dewahuwa Scheme would also function as a member of the supporting staff in addition to his normal duties.

ANNEX V

Land and buildings to be provided by the Government of Ceylon:

1. Land:
 - Farmland with facilities for the testing work (paddy cultivation) 3 acres
 - do - (for Upland farming) 3 acres
 - Land for the Agricultural Mechanization Centre 2 acres
2. Buildings:
 - Agricultural Co-operatives 520 M²
 - Pilot Farm Facilities 1,410 M²
 - Mechanization Center 420 M²
 - Office & Expert's Field Accommodations 1,120 M²

ANNEX VI

Composition of the Joint Committee for Dewahuwa Development Project:

A: Ceylonese side:

- Project Director.
- Representative of Ministry of Agriculture & Food.
- Representative of Ministry of Land, Irrigation & Power.
- Government Agent of Anuradhapura.
- Representatives of the Cultivators in Project area.
- Project Co-Manager.

B: Japanese side:

Project Manager.

Representatives of the Japanese technical experts.

Representative from the Embassy of Japan.

Note:

The Japanese Survey Team-Members for the Project may also participate in the discussions at this Joint Committee while they are staying in Ceylon.

ANNEX VII

Executive organization of the Project:

